陸上競技部

関西インカレ 4×400mリレー 優勝

藤田拓矢選手 三原雅司選手 廣瀬達也選手 藤田慎也選手

大教スポーツ

（写真左から）
藤田（拓）、三原、廣瀬、藤田（慎）

信頼がつないだ黄金のバトン

空前の優勝ラッシュ

5月14日（木）から17日（日）に開かれた第92回関西学生陸上競技対校選手権大会（通称：関西インカレ　於ヤンマースタジアム長居、ヤンマーフィールド長居）で、本学陸上競技部が優勝ラッシュに沸いた。

個人では、200m走での三原雅司選手（スポーツ専攻3回生）を皮切りに、400m走では藤田拓矢選手（大学院保健体育専攻2回生）、棒高跳びでは山方諒平選手（大学院保健体育専攻1回生）が、そして団体では4×400mリレー（以下、マイルリレー）で、藤田（拓）選手、三原選手、廣瀬達也選手（大学院保健体育専攻2回生）、藤田慎也選手（スポーツ専攻4回生）の4人の手で栄冠をつかんだ。中でも、マイルリレーでの頂点は創部以来初の快挙だ。同部の中で最もタイムの速い4人が選出され、個々の総力の底上げとバトンパス技術の向上に一年間取り組んだ。

「うちはバトンパスが弱点。4×100リレーと違い、マイルリレーは、バトンを受け取る際の歩数をあらかじめ決められるものではありません。前走のコンディションにも影響されますし、状況に応じて出るタイミングを計らないといけませんから、ひたすら練習を重ねて精度を高めました（藤田（慎）選手）」。

必ず1着で帰ってくる

臨んだ決勝戦。第1走者は、400m走で優勝した藤田（拓）選手。レーンはその時と同じ、大外の9レーンに入った。「個人と同じレーンだったので、緊張はありませんでした。ぼくが仕事をしないと流れは作れない。必ず1着で帰ってくる、その一心でした」と当時を振り返る。その決意通り、誰の背中も見ることなくトップでバトンを渡した。「拓矢さんなら必ず1番で帰ってくる」と確信していたという三原選手。「たとえ抜かれたとしても、ラスト100mで抜き返して、誰よりも早く廣瀬さんにバトンを届ける」、その見立ては的中した。前半2人に抜かれるも、持ち合い時の加速で追い抜き、理想的なレース展開で第3走者廣瀬選手へとバトンが渡る。「一番格下のぼくが足を引っ張るのではと、自信がなかった」と正直な思いを吐露する廣瀬選手。しかし、「とにかく前半先頭でひっぱり、後半に粘りを見せる」と弱気の虫を払しょくした。ラスト2人に抜かれるも、僅差の3着。3人の気持ちを託したバトンは、いよいよアンカー藤田（慎）選手につながれた。藤田（慎）選手はバトンを受け取った時の心境を、「焦って自滅するのがぼくの失敗パターン。でもあのときは、落ち着いていました。この差なら絶対に挽回できる自信があった」と振り返る。残り直線100m、他校の選手の影は見えない。トラックの外には、応援する部員の声援がこだまし、前走した3人の姿もはっきり見えた。こぶしを振り上げ、1着でゴールすると、すぐさま歓喜の輪が出来上がった。応援団は、お祭り状態。涙を流す部員もいて、部員全員で喜びを分かち合った。藤田（拓）選手、廣瀬選手が卒業予定のため、来シーズンは、顔ぶれも一新する。藤田（慎）選手は「大学院に進学予定で、陸上も続けていきます。先輩たちの意思を引き継いで、走りで後輩たちを牽引していきます」、三原選手は「リレーのメンバーも大幅に変わることになりますが、一つひとつを積み重ねて連覇を狙います」と力強く宣言した。

今後も陸上競技部の活躍から目が離せない。

棒高跳 山方諒平選手 自己記録タイでの連覇

2位と20cm差の圧勝

棒高跳の山方選手は自己記録タイの5メートル30で2位とは20センチ差をつけ、堂々の連覇を果たした。「今シーズンは調子がよく、練習の跳躍でも力みがなくて、今日は跳べると自信が持てました。ハードルを通過した瞬間は、気持ちいい！の一言でした」と喜びの声を上げた。好調の要因については「昨年と同記録でも、当時はハードルすれすれでした。今年は棒の長さを変えることで、助走スピードがポールに直に伝わり、踏切動作に力強さが増して、余裕のある跳躍ができました」と自らを評した。

来シーズンに向けては、「今年7月の日本選手権が7位入賞だったので、その上をめざすため、照準を合わせて練習に励みたい」と意気込んでいる。

関西インカレ優勝者の記録一覧

種目	氏名	記録	種目	氏名	記録
200m	三原雅司	21.36	4×400m	(1)藤田拓矢(2)三原雅司(3)廣瀬達也(4)藤田慎也	03:08.52
400m	藤田拓矢	46.75	棒高跳	山方諒平	5m30

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1

大教スポーツ

平成27年11月16日(月)　3号

発　行:大阪教育大学体育会　　編集長:太田順康(保健体育教育講座教授)
編集員:松端伶奈(女子サッカー)/信川恵美(L.S.B)/林田孝祐(男子ラクロス)/葛城諒太(男子ラクロス)/長田佳樹(合氣道)/佐伯結衣(合氣道)/乾祐郁(L.S.B)/木下加珠美(モダンダンス)/辰己陽輝(バドミントン)/五十嵐馨(剣道)/小島里咲(フォークダンス)/松岡里佳(陸上競技)/加藤舞(硬式テニス)/砂場優里子(陸上競技)

2面　平成27年度上半期体育会 主な成績・活動一覧
3面　第53回近畿地区国立大学体育大会結果一覧
3面　平成27年度下半期 試合・行事日程一覧
4面　我が体育会～現役生に贈る言葉～/編集後記

平成27年度上半期 主な成績・活動一覧

男子・女子サッカー部 近国体 アベック連覇

第53回近畿地区国立大学体育大会（通称近国体）が、7月25日（土）から8月9日（日）の期間開催され、決勝戦で、男子サッカー部が神戸大学を3対0で、女子サッカー部が京都教育大学を2対0で下し、アベック優勝を決めた。男子は2連覇、女子は11連覇の快挙だ。男子サッカー部主将の田中選手（スポーツ専攻4回生）は「勝つことが使命の大会。絶対に勝たなければいけないプレッシャーの中、勝つことができてほっとした」と率直な感想を述べた。女子サッカー部主将の山口選手（保健体育教育専攻4回生）は、「春季リーグで負けた相手だけに、絶対勝つとの気持ちで臨んだ試合だった。延長までもつれたものの、勝ててよかった」と胸の内を語った。また、連覇へのプレッシャーに対して、「自分よりもほかのメンバーの緊張のほうが大きいと感じた。主将として、先頭切って周りに声をかけ、いい雰囲気を作ることを意識した（田中選手）」「11連覇のプレッシャーはありました。でも、試合に入れば考えずにプレーできました。（山口選手）」と語り、それぞれ良いコンディションで試合に臨めたようだ。これから始まる秋季リーグに向けては、「前季は3位で折り返し、思うような結果にならなかった。男子サッカー部は1部リーグに昇格しなければならないチーム。この結果に満足せず、全勝めざして」「試合一試合を大事に、情熱をもって戦っていきたい（田中選手）」「春季は結果が芳しくなく、特に前半戦が悪かったので、秋季は第1戦目からそれぞれがスムーズにプレーすることを目標に、1部リーグ昇格を最終目標として頑張りたい」と抱負を語った。

柔道部 関西学生柔道優勝大会 2部リーグ優勝

第65回関西学生柔道優勝大会（5月17日　於：兵庫県尼崎市ベイコム総合体育館）で、柔道部が2部リーグ優勝を果たした。団体戦は5人戦で行われ、先鋒、次鋒、中堅、副将、大将の順で試合は進む。準々決勝の対京都学園大を3対2、準決勝の対滋賀大を3対1で勝ち上がり、迎えた大阪大との決勝戦は激闘の様相を呈した。先鋒戦は引き分けに終わり、次鋒戦は有効ポイントを奪われ惜敗、中堅戦は一本負け。後がない状況での副将戦は、残り時間14秒で大逆転の一本勝ちを収めた。その勢いのまま、大将戦も鮮やかな一本勝ち。結果2対2で並んだが、本学が一本勝ちを2本、大阪大が一本勝ちと有効で、僅差で勝利をものにし、2部リーグの頂点に輝いた。大会2週間前には、他大学と3日間の合宿を行い、心と体の準備を整えた。前部長の坊佳紀選手（教育科学専攻4回生）は、「合宿を終えてから大会まで間隔が空いたが、そこで皆が気を緩めることなく、ピーキングして試合当日を迎えられた」と勝利の要因を評価した。今年は、関西学生柔道優勝大会、大阪府下国公立四大学対抗柔道優勝大会、近畿国立大学体育大会の3つのタイトルを獲得した。坊選手は、「来年も各大会でタイトルを取り、連覇を重ねてほしい。けれども、強さのみを追求するのではなく、初心者から経験者まで、皆が楽しく練習できるような部であってほしい」と、後輩たちに熱き思いを託した。

2部リーグ 優勝

決勝戦 試合結果

	大阪教育大学	学年	段	決まり技	大阪大学	学年	段
先鋒戦	坊 佳紀	4	参	引分	田中 隆裕	4	弐
次鋒戦	辻本 晴	1	初	優勢勝	伊藤 祐輝	1	初
中堅戦	竹村 裕人	4	弐	上四方固	松村 郁弥	4	弐
副将戦	滝川 大介	3	弐	裏投	片桐 健登	3	初
大将戦	由留木 俊之	3	参	袈裟固	鷹合 宣宗	4	初

部活名	大会名	結果
男子バスケットボール部	第54回全国教育系11大学バスケットボール競技大会	優勝／安部瑞基（スポーツ4回生）最優秀選手
女子バスケットボール部	第54回全国教育系11大学バスケットボール競技大会	優勝／松本光香里（小学校体育4回生）最優秀選手／山下明恵（スポーツ3回生）アシスト部門1位
男子バレーボール部	関西学生バレーボール春季リーグ	2部2勝5敗0分 7位
女子バレーボール部	関西女子学生バレーボール春季リーグ	4部5勝2敗0分 3位
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ	2部0勝6敗0分 7位→3部降格／井上達哉（スポーツ3回生）2部3季連続得点王
女子ハンドボール部	関西学生ハンドボール春季リーグ	1部9勝1敗0分 準優勝
硬式野球部	近畿学生野球春季リーグ	1部8勝4敗 3位／山口琢士（小学校体育2回生）ベストナイン選出
準硬式野球部	阪神六大学リーグ春季リーグ	8勝3敗1分 2位／北田智基（中学校数学4回生）首位打者・盗塁王・ベストナイン選出
男子サッカー部	関西学生サッカー春季リーグ	2部5勝3敗1分 3位
女子サッカー部	関西学生女子サッカー春季リーグ	2部2勝5敗 6位
ラグビー部	第53回近畿地区国立大学体育大会	優勝
アメリカンフットボール部	西日本学生大会	2勝1敗Div.II/3位／岸大祐（情報科学3回生）関西学生選抜大会出場
硬式庭球部	ダブルス全日本学生選手権予選出場	田中千愛（スポーツ2回生）／加藤舞（スポーツ2回生）
ソフトテニス部	関西学生春季リーグ	男子5部5勝0敗 優勝→4部昇格／女子4部1勝4敗 4位
卓球部	柏原市卓球協会会長杯卓球大会	男子A:2部トーナメント優勝／男子B:3部トーナメントベスト8／女子:トーナメント3位
剣道部	第60回西日本 学生剣道大会	男子団体ベスト16
	第30回西日本女子学生剣道大会	女子団体ベスト16
柔道部	関西学生柔道優勝大会	男子団体2部 優勝
合氣道部	特になし	
空手道部	第53回西日本大学空手道選手権大会	団体出場
体操競技部	西日本学生体操選手権大会	中東大輝（小学校国語4回生）112位
陸上競技部	第92回関西学生陸上競技選手権大会	4×400mリレー優勝（藤田拓矢・三原雅司・廣瀬達也・藤田慎也）／三原雅司（スポーツ3回生）200m優勝／
		藤田拓矢（大学院保健体育2回生）400m優勝／山方諒平（大学院保健体育1回生）棒高跳優勝
バドミントン部	全国国立教育系大学バドミントン選手権大会	男子団体3位／女子団体3位／田中智子（スポーツ4回生）ダブルス優勝、シングル準優勝
水上競技部	第89回関西学生選手権水泳競技大会	男子1部総合6位
	第51回関西女子学生選手権水泳競技大会	女子1部 総合3位／小林奈央（スポーツ4回生）100・200mバタフライ優勝／渡邉有希子（スポーツ3回生100m）背泳ぎ優勝／
		山本映実（スポーツ2回生）50m自由形優勝
スキー部	全関西学生スキー選手権大会	男子2部総合3位
民族舞踊部	特になし	
モダンダンス部	特になし	
男子ラクロス部	特になし	
女子ラクロス部	Down Under Cup 2015（オーストラリア）	水口由梨（小学校家政2回生）関西ユース選抜選手
弓道部	特になし	
L.S.B	五月祭ダンスステージショー	出演
山岳部	特になし	

第53回近畿地区国立大学体育大会結果一覧

総合成績(男子)

総合優勝	京都大学
準優勝	大阪教育大学
3位	神戸大学

総合成績(女子)

総合優勝	大阪教育大学
準優勝	京都教育大学
3位	神戸大学・奈良女子大学

競技種目別成績

部名	男女別	順位
陸上競技	男	3位
	女	3位
水泳	男	優勝
	女	優勝
野球	男	1回戦敗退
軟式野球	男	1回戦敗退
テニス	男	3位決定戦敗退
	女	優勝
ソフトテニス	男	優勝
	女	2回戦敗退
バスケットボール	男	優勝
	女	準優勝
バレーボール	男	初戦敗退
	女	初戦敗退

部名	男女別	順位
サッカー	男	優勝
	女	優勝
ラグビー	男	優勝
卓球	男	1回戦敗退
	女	1回戦敗退
バドミントン	男	3位
	女	1回戦敗退
柔道	男	優勝
剣道	男	4位
	女	優勝
体操競技	男	優勝 ※実施規定参加大学数に満たないため、オープン競技として参加
ハンドボール	男	初戦敗退
	女	優勝
弓道	男	6位
	女	10位

平成27年度 下半期 試合・行事日程一覧

部活名	予定	日程
男子バスケットボール部	関西学生バスケットボール秋季2部リーグ	8月29日～
女子バスケットボール部	関西女子学生バスケットボール秋季2部リーグ	8月下旬～9月下旬
男子バレーボール部	全日本バレーボール大学男女選手権大会	
女子バレーボール部		
男子ハンドボール部	関西学生ハンドボール秋季3部リーグ	
女子ハンドボール部	第51回全日本学生選手権	
硬式野球部	近畿学生野球秋季1部リーグ	
準硬式野球部	阪神六大学リーグ秋季リーグ	8月25日～
男子サッカー部	関西学生サッカー秋季リーグ	
女子サッカー部	関西学生女子サッカー秋季リーグ	
ラグビー部	関西大学Bリーグ	9月20日～11月29日
アメリカンフットボール部	関西学生アメリカンフットボールリーグDiv.II	9月5日～
硬式庭球部	関西学生新進テニストーナメント	
ソフトテニス部	関西学生秋季リーグ	9月12日～
卓球部	第13回関西学連交流卓球大会	

部活名	予定	日程
剣道部	第63回関西学生剣道優勝大会	9月27日
	第39回関西女子学生剣道優勝大会	
柔道部	大阪府下大学対抗柔道大会	11月15日
	大阪学生柔道体重別大会	12月6日
合氣道部	特になし	
空手道部	第37回全国国公立大学空手道選手権大会	
体操競技部	関西学生体操新人選手権大会(兼)関西学生交流大会	11月8日
陸上競技部	関西種目別対抗選手権大会	
バドミントン部	関西学生バドミントン秋季リーグ男子3部、女子3部	
水上競技部	第91回 日本学生選手権水泳競技大会	9月4、5、6日
スキー部	学生チャンピオンスキー大会	
民族舞踊部	特になし	
モダンダンス部	学生チャレンジプロジェクト特別講演	
男子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ1部	8月～10月
女子ラクロス部	関西学生ラクロスリーグ2部	8月8日～
弓道部	特になし	
L.S.B	神霜祭ダンスショー	11月1、2、3日
山岳部	特になし	

現役生に贈る言葉

我が体育会 第3回

温故知新をテーマに、本学体育会とゆかりのある人にインタビューするこの企画。第3回は、本学男子バスケットボール部から、プロリーグTKbjリーグで選手と指導者、それぞれの立場で活躍する2人のOBを紹介します！

TKbjリーグ岩手ビッグブルズ選手 大森勇さん

©IWATE BIGBULLS/bj-league

2015年大阪教育大学大学院修了。本学在学中に実業団リーグの日新シール工業でプレー後、プロリーグに活動の場を移す。2012－2013、2013－2014シーズン高松ファイブアローズ、2014－2015シーズンに東京サンレーヴスに拠点を移し、2015－2016シーズンから岩手ビッグブルズでプレー。

――リーグに在籍して3年目のシーズンですが、プロ生活はいかがですか？

プロと実業団との一番の違いは、なんといっても外国人選手の存在です。2m100kgを超える巨体が相手なので、直に身体にぶつかると交通事故に遭ったような衝撃を受けますから、かわしたり、ぶつかり方に工夫をしたりしています。

――TKbjリーグの魅力は？

ダンクシュートに代表される華やかなプレーですね。ルールをよく知らない人でも楽しめますよ。コートを彩るチアリーダーもいて、演出面でも興業なのだと実感しますね。

――大阪教育大学時代の思い出は

4回生の時は、〝応援されるチーム〟を目標に、挨拶や体育館の清掃など、生活のマナーにも気を配っていました。この意識はプロでも変わりません。プレーでは、3部優勝を目標に、キャプテン代行として、プレーで牽引するだけでなく、精神的支柱になれるように努めました。優勝には一歩届きませんでしたが、よく結束し、他のクラブやOBの方々が声援を送ってくれる、愛されるチームでした。チームスポーツは一人の技術だけでは成り立ちません。ベンチでも声掛けしたり、気遣ってあげたり。コート内外でチームを円滑に導こうとする姿勢はプロでも役だっています。

――今後の目標は？

もっと上手くなりたい。ポイントガードというポジションはチームの司令塔ですから、自分の指示でまわりが動くので、常に状況を考えてプレーを選択しています。技術でも頭脳でも常に向上させてチームを優勝に導けるプレイヤーになりたいです。

――プロをめざす後輩にメッセージを

ぼくは恵まれた体格でもないし、大した成績も残していません。それでも、プロになりたいという明確な目標を持って鍛錬していれば、きっとそのエネルギーに周囲が気づいてくれます。ぼくもさまざまな人との出会いやサポートを通して道が開けました。プロという夢があるなら、なりふりかまわずその夢に向かって努力を続けてください。大教大から一人でも多くプロ選手として活躍する人が出てくることを願っています。

TKbjリーグ京都ハンナリーズ アシスタントコーチ 髙橋哲也さん

京都ハンナリーズ
京都をホームタウンに活動するプロバスケットボールチーム。2005年に開幕したプロバスケットボールリーグ「TKbjリーグ」に所属。チーム設立6年目の2014-15シーズンは、リーグ史上最高勝利数となる44勝を記録し、初のウェスタン・カンファレンス1位に輝いた。2016年10月に開幕する新リーグ「Bリーグ」では「1部リーグ」所属が決定している。ホームアリーナは、西京極の「ハンナリーズアリーナ」

大学院保健体育専攻修了。平成21年4月から6年間、特別支援学校教諭として働きながら本学男子バスケットボール部のヘッドコーチとしてチームを指揮。平成26年には創部初の1部リーグ入替戦出場に導く。平成27年4月より現職。

――本学初となるバスケットボールリーグのプロコーチですが、どんな仕事をしていますか？

対戦選手の特徴をまとめたビデオやレポートの作成などを主に担当しています。バスケットボールはサインプレーによって特徴的な動きが定められているので、一瞬一瞬を見逃さず、さまざまなサインを見抜くことで選手の特徴、ひいてはチームの特徴が浮かび上ります。それと、練習前や後に若手の個人練習につきあったり、メニューを提供したりもしています。

――教師の道を断ってのプロコーチ就任ですが

迷いはありませんでした。教師の仕事も楽しくて性に合っていましたが、運よく声がかかったとき、これを断ったら絶対に後悔すると思いました。ただ、選手との接し方、良いところを見つける姿勢など、教師の経験は今の仕事にも活かされていますよ。

――プロの世界はいかがですか？

プロリーグですから、競技レベルが学生時分とは格段に違いますし、競技をする選手もそれで生計を立てていますから、練習や試合に取り組む姿勢が何よりも違いますね。結果でしか評価されませんし、シビアで、刺激のある世界です。

――京都ハンナリーズの魅力は？

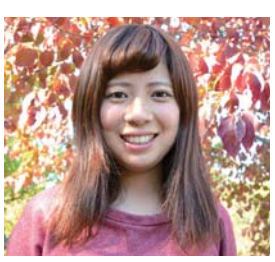
お互いの選手たちが刺激を与えあい、他のチームよりも結束している。それが最大の魅力で強みだと思います。それは指導者の力によるところも大きいですね。ヘッドコーチの方針で、バーベキューや飲み会など、コミュニケーションをとる機会がよく設けられていて、チームがまとまる工夫がされているなと感じます。

――男子バスケットボール部にメッセージを

1部リーグ昇格させることは叶わなかったけれど、毎日ひとつずつ自分たちの課題を見つけて、努力を積み重ねていけば、自分たちの目標に近づけるのではないかと思います。ヘッドコーチとしてバスケットボール部と関わることはできなくなりましたが、いつも気にかけていますし、OBの中ではぼくが一番の応援団です。

▲選手とハイタッチを交わす髙橋さん
(c)KYOTO HANNARYZ bj-league

編集後記



手探りで始めた大教スポーツも第3号を無事に発刊することができました。前号は各方面の方々からお褒めの言葉を頂き、大変嬉しく思うとともに、その言葉を励みに今号を制作しました。今号もたくさんの感想をお待ちしております。さて、前号、前々号と本誌の取材・編集を牽引した広報部員の先輩方が引退し、今号は新しいメンバーで制作に取り掛かりました。取材も原稿作成も初めてで、不安な面持ちをしていた新米記者たちでしたが、期待以上の出来栄えに仕上がったのではないかと思います。これからも、広報部員一丸となって、この大教スポーツをパワーアップさせつつ、後進へ引き継いでいきたいです。皆さまもどうぞ応援よろしくお願いいたします。最後になりましたが、今号の発行にあたりご協力いただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げます。

体育会広報部長
松端怜奈（女子サッカー部）